国際アスリート コース　　2025年度シラバス（地歴公民科）　　開志国際高等学校

科目	倫理	学年	第3学年	開講	通年	必修	2 単位

教科書：　実教出版「詳述倫理」
副教材：　実教出版「詳述倫理　演習ノート」、浜島書店「最新図説　倫理」

1　学習の到達目標

① 人間尊重の精神に基づいて、青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について理解と思索を深めさせる。
② 人格の形成に努める実践的意欲を高め、生きる主体としての自己の確立を促し、良識ある公民としての必要な能力と態度を育てる。

2　学習計画及び評価方法

a　知識・技能　　定期考査、課題等
b　思考・判断・表現　　定期考査、課題等
c　主体的に学習に取り組む態度　　平素の授業態度、提出物、発表等

学期	項目	単元	学習内容	学習のねらい	月	考査	評価の観点 a	b	c
前期	第1章	青年期の課題と自己形成	青年期とは何か	・人間性の特質について考察し、自分の考えをまとめる。 ・青年期をアイデンティティ確立の時期として理解し、生涯にわたり繰り返される自己の成長について考察する。 ・自己の内面を客観的に見つめ、欲求の充足と調整への理解を通して、望ましい自己のあり方について考察する。	4		○	○	○
			自己形成の課題				○		
			よりよい生き方を求めて					○	○
		人間とは何か						○	○
	第2章	ギリシア思想	自然哲学	・ギリシアの思想家のものの見方・考え方を理解することにより、私たちにとってどのような意味をもつのかを考える。 ・宗教を原因とする争いを通じて、宗教とは何かを理解する。 ・哲学や宗教の意義を考え、先人の生き方を手がかりに、どのように生きていくべきかを学ぶ。	5		○		
			ソフィストとソクラテス				○	○	○
			プラトン				○		○
			アリストテレス				○	○	○
			ギリシア思想の展開				○	○	
		キリスト教	古代ユダヤ教	・ユダヤ教、キリスト教、イスラーム、仏教について学び、それぞれにみられる人間観について理解する。 ・中国思想を学び、個人の内面のあり方や他者とのつながりについての理解と思索を深める。 ・哲学や宗教の意義を考え、先人の生き方を手がかりに、どのように生きていくべきかを学ぶ。	6		○	○	
			イエス				○	○	
			キリスト教の誕生と展開				○	○	
		イスラーム					○	○	○
		仏教	仏教以前のインド思想				○		
			ブッダの教え				○	○	
			大乗仏教の成立とその教え				○	○	
		中国思想	「道」の自覚ー孔子				○	○	
			儒家思想の展開				○	○	
			老荘思想			中間	○	○	
	第3章	人間の尊厳	ルネサンス	・価値観の中心が神から人間へと移行した背景とともに、宗教の在り方の変化について理解を深める。	7		○	○	
			宗教改革				○		
			モラリスト				○		
		科学・技術と人間	近代の自然観	・人間中心の価値観によって見出された新たな理論について学び、各理論の特性を理解する。	9		○	○	
			経験論と合理論				○	○	
		民主社会と自由の実現	社会契約説	・民主社会における人間の在り方についての理解と思索を深める。 ・カント、ヘーゲルなど、哲学の歴史において重要な転換・革新をもたらした思想について、その後にどのような影響を与えていったのかを考察する。			○	○	
			カント				○	○	
			ヘーゲル				○	○	
		社会と個人	功利主義	・自己実現と幸福、個人と社会の関わりについての理解と思索を深める。 ・それぞれの思想主義がどのように社会の進歩を構想していったのかを比較考察する。			○	○	○
			社会の進歩と変革				○	○	
			プラグマティズム			期末	○	○	○
	前期　授業評価						○	○	○
		近代的人間の見直し	実存主義	・近代的人間による理想を目指して生じた様々な問題について、主体性や無意識といった観点から自我について考察する。 ・言語論に基づく哲学の新たな捉え方を通じて、言語や言葉が有する幅広い捉え方から脱固定化の思考法を学ぶ。	10		○	○	
			無意識の発見				○		
			言語論的転回				○	○	
			構造主義				○		
		現代の暴力に抗して	生命への畏敬と非暴力の思想	・人間社会における哲学的な課題について、思想家たちがどのように問題提起をして、克服方法を探っていったかを理解し、自分なりの考えや主張を確立する。			○		
			理性、人間、他者の見直し				○		
			公共性、正義、共通善の実現				○	○	○
	第4章	古代日本人の思想	日本人の自然観と気質	・儒教の日本化や庶民の思想、外来思想の特徴を理解するとともに、それらが日本人の思想形成に与えた影響について考察する。	11		○	○	
			神との関わりと道徳観				○	○	
		日本の仏教思想	仏教の受容	・日本に流入した仏教がどのような役割を担い、影響を与えていったのかを考察する。 ・日本における仏教の独自の発展について、当時の日本の様子と照らし合わせて考察する。			○		
			仏教の日本的展開ー鎌倉仏教				○	○	
			仏教と日本文化				○		
		近世日本の思想	儒教の受容と朱子学	・儒教の日本化や庶民の思想、外来思想の特徴を理解するとともに、それらが日本人の思想形成に与えた影響について考察する。			○		
			日本陽明学				○		
			日本的儒学の形成ー古学				○		
			国学の形成				○	○	
			民衆の思想				○	○	
			幕末の思想				○	○	
		西洋思想の受容と展開	啓蒙思想と自由民権思想	・国際社会に生きる日本人として、これからの自分の生き方やあり方について考える意欲を高める。 ・日本の西洋文化や思想の受容を通して、日本と西洋諸国の違いについて比較考察する能力を養う。			○	○	
			キリスト教の受容				○	○	
			国家主義の台頭と社会主義思想				○	○	
			近代的自我の確立				○	○	
			近代日本哲学の成立と超国家主義				○	○	
			伝統の自覚と新たな課題			学年末	○	○	
	第5章	生命の倫理		・現代の主要となる哲学的な課題について、問題点と意見対立の要点を把握し、自分なりの考えや主張を確立できる。			○	○	○
		環境の倫理					○	○	○
	後期　授業評価						○	○	○

3　評価の観点

各観点100点満点で算出する。
○知識・技能　　：考査素点 70%＋課題等 30%
○思考・判断・表現　　：考査素点 60%＋課題等 40%
○主体的に学習に取り組む態度：平素の授業態度、提出物等…100%